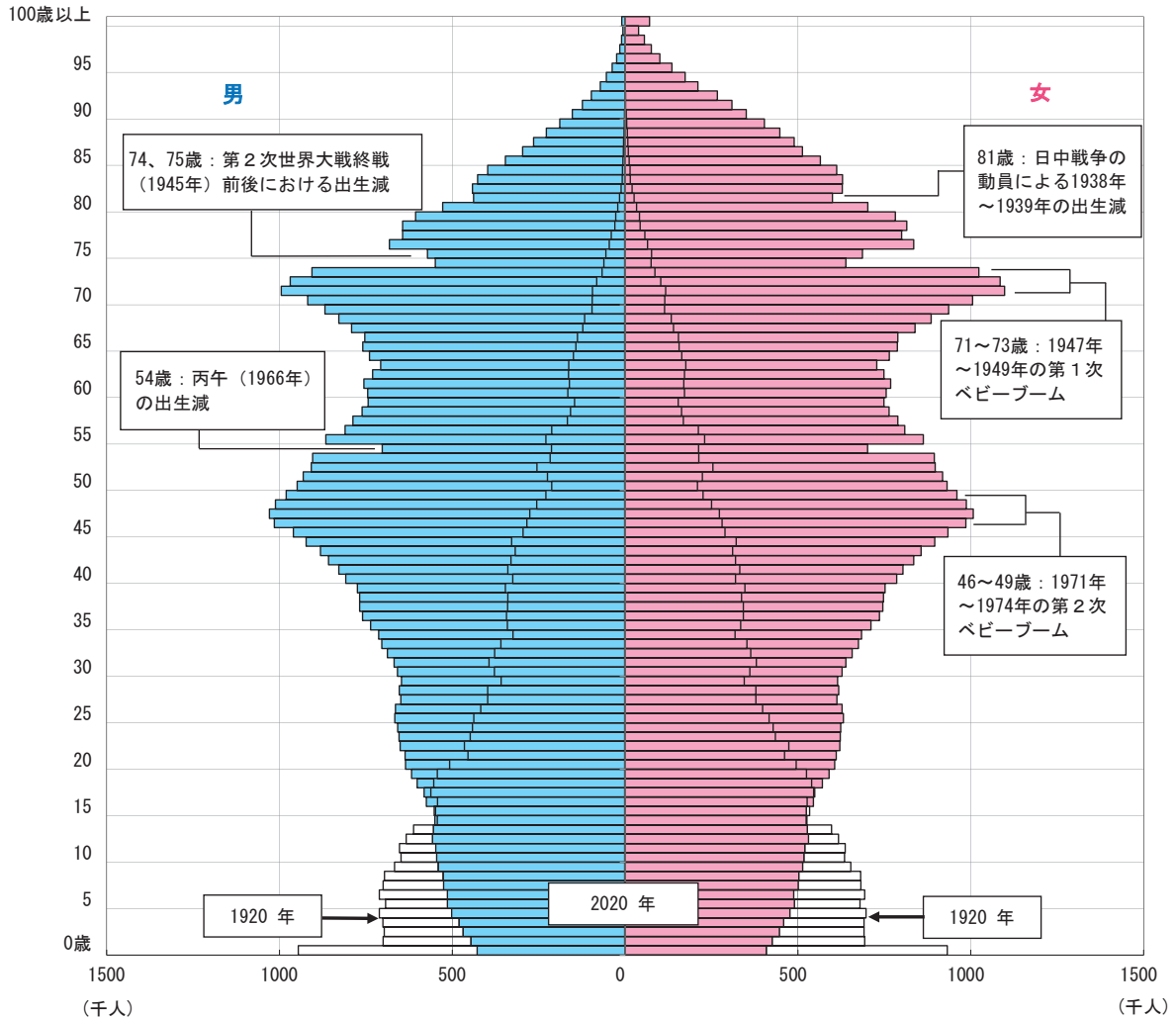


1 人口 –社会のみえない変化–

普段の生活では目にみえませんが、人口の構造は変化しています。男女・年齢や地域の違いによってどのような変化が起きているのかみていきましょう。

Q1 昔と今の人口ピラミッドを比べると何がわかる？

人口ピラミッド（1920年、2020年）



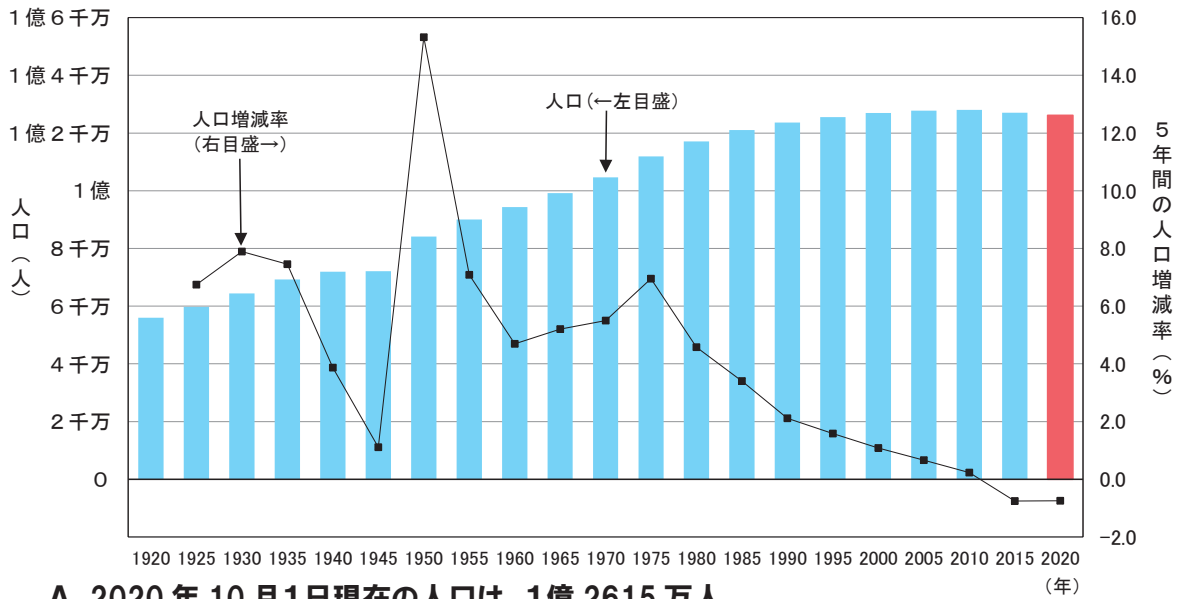
注) 2020年は不詳補完値による。

A 1920年に比べて、2020年は70歳代前半や40歳代後半の人口が特に多く、15歳未満の人口が少ない

※ 「丙午（ひのえうま）」とは干支の一つ。60年に一度、まわってきます。この年に生まれた女性は気が強い性格になるという迷信から、子供をもうけることを避ける夫婦が増え、人口が極端に少ない年になったと考えられています。

Q2 日本の人口は何人？

人口及び人口増減率の推移—全国（1920年～2020年）



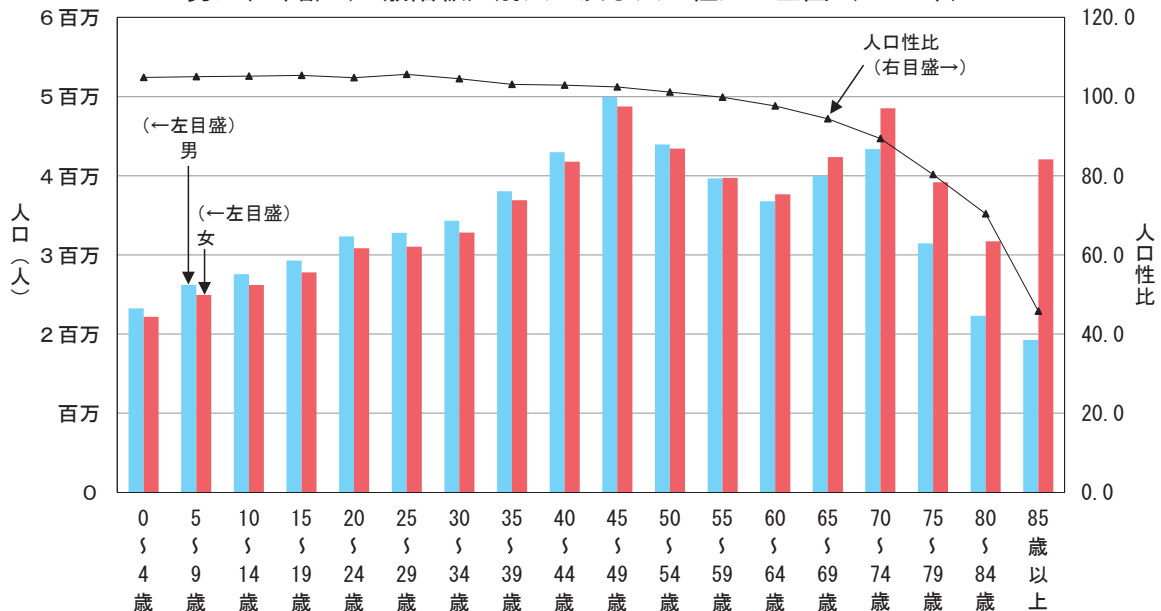
A 2020年10月1日現在の人口は、1億2615万人

- ◆ 2015年（0.8%減）は、1920年の調査開始以来、初めての人口減少となり、2020年（0.7%減）も引き続き人口減少
- ◆ 人口増減率は、日中戦争、太平洋戦争の影響で低下し、その後の第1次ベビーブームで急上昇。第2次ベビーブームにより1975年に大きく上昇するが、その後低下

注意点① P. 39

Q3 男性と女性の数は年齢でどう変化している？

男女、年齢（5歳階級）別人口及び人口性比—全国（2020年）

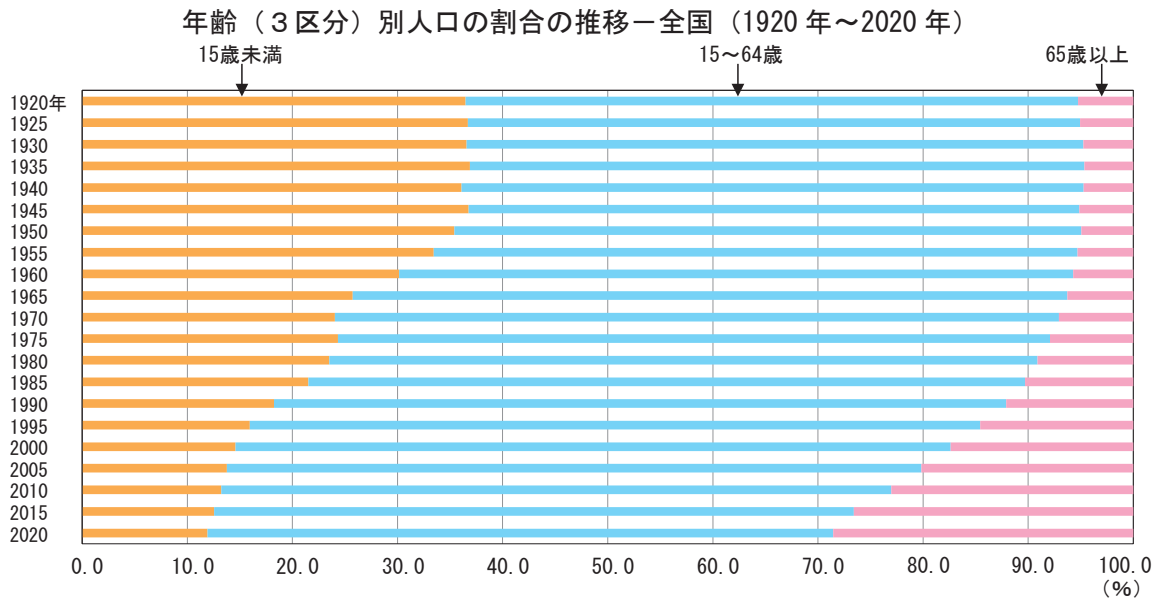


注) 不詳補完値による。

A 50歳後半から人口性比は100を下回る

- ◆ 65歳未満人口の人口性比は100に近い結果となっているが、65歳以上人口については年齢が上がるほど大幅な低下がみられる
- ◆ 30歳代以上は年齢階級が上がるほど人口性比は低下

Q4 人口の年齢構成はどう変化している？



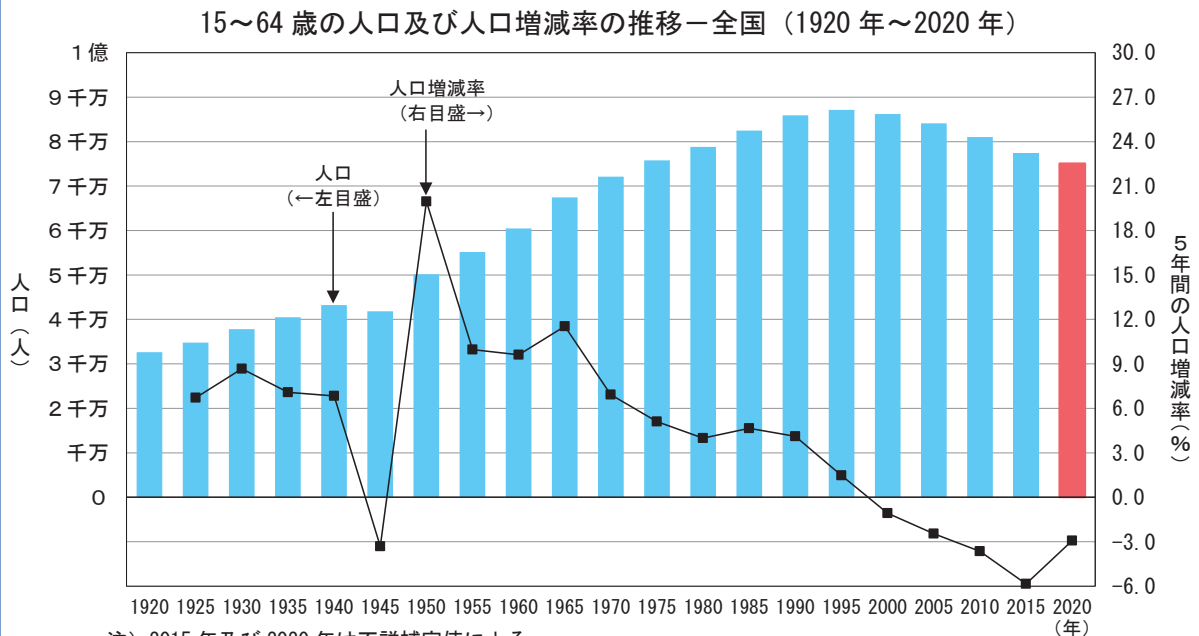
注) 2015年及び2020年は不詳補完値により算出

A 15歳未満人口の割合は低下、65歳以上人口の割合は上昇

- ◆ 15歳未満人口の割合は1980年以降低下が続き、2020年は11.9%で調査開始以来最低
- ◆ 65歳以上人口の割合は1955年以降上昇が続き、2020年は28.6%で調査開始以来最高

注意点② P. 39

Q5 働く世代の人口はどう変化している？



注) 2015年及び2020年は不詳補完値による。

なお、2020年の人口増減率は不詳補完値により、2015年以前の人口増減率は原数値により算出

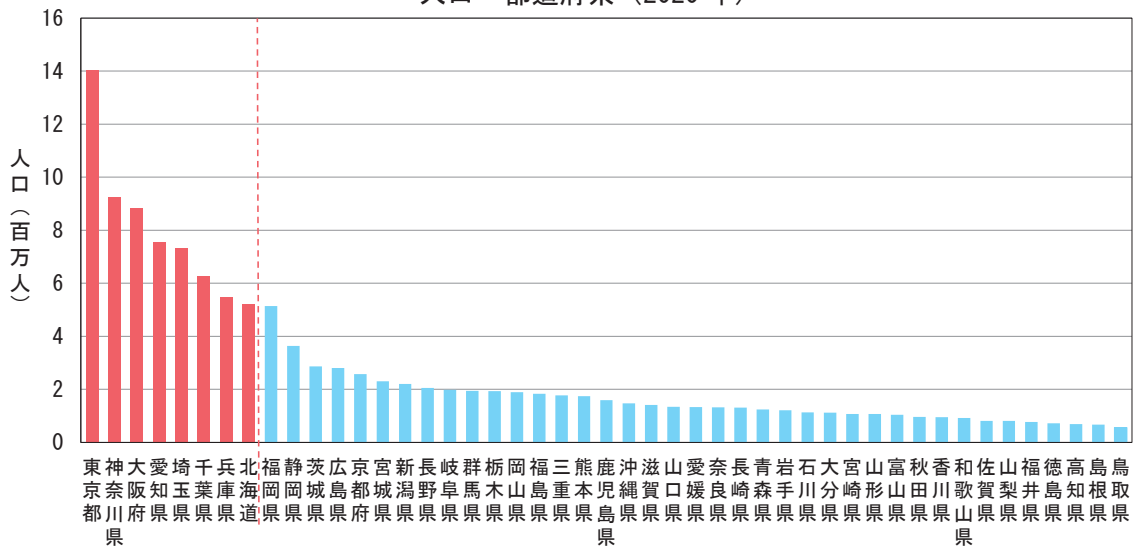
A 1950年以降15～64歳人口は増加していたが、1995年をピークに減少に転じた

- ◆ 2020年の15～64歳人口は、2015年と比べて227万人(2.9%)の減少

※ 15～64歳人口は生産年齢人口と呼ばれています。

Q6 最も人口が多い都道府県はどこ？

人口—都道府県（2020年）

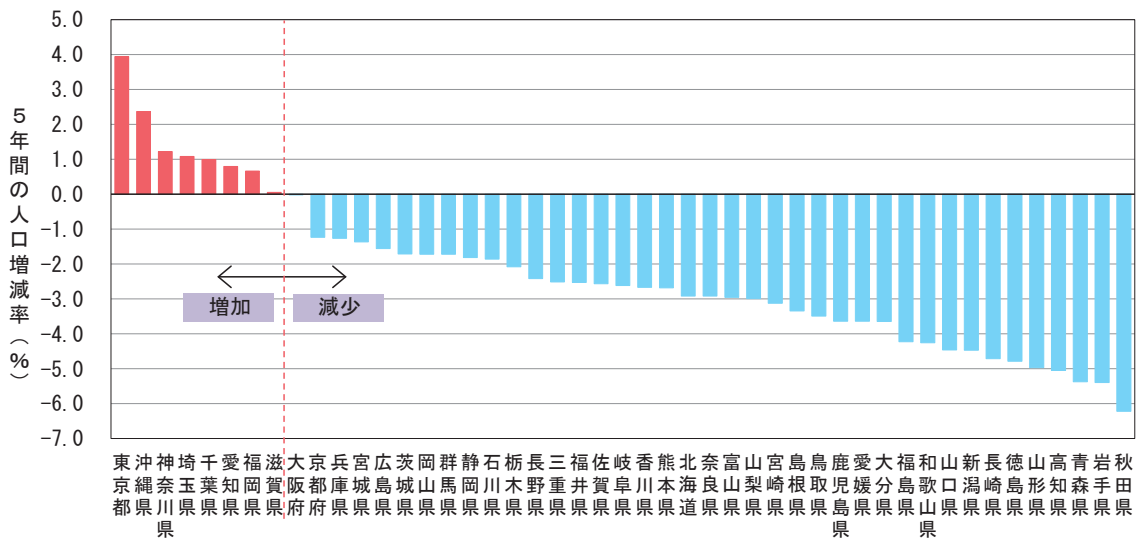


A 東京都(1405万人)で、全国の1割以上を占める

- ◆ 東京都は最も人口が少ない鳥取県（55万人）の25倍以上
- ◆ 人口上位8都道府県を合わせると、全国の5割以上を占める

Q7 5年前と比べて、人口が増加した都道府県はどこ？

人口増減率—都道府県（2020年）



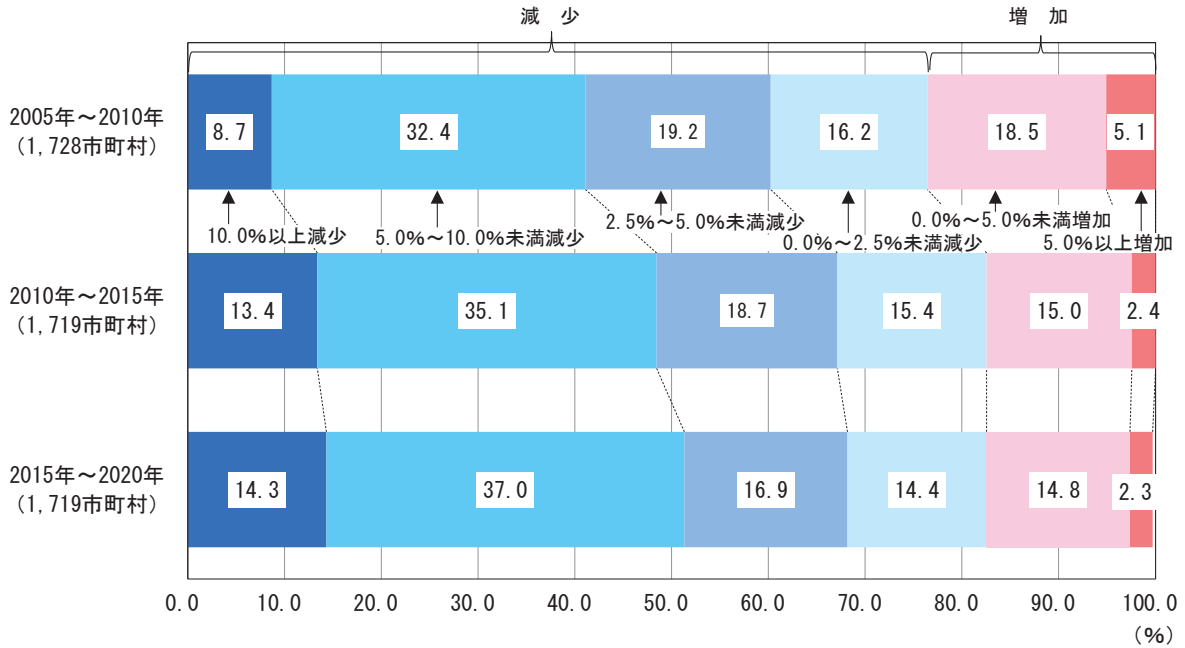
A 東京都、沖縄県、神奈川県、埼玉県など8都県で人口が増加

- ◆ 秋田県、岩手県、青森県、高知県など39道府県では人口が減少
- ◆ 最も人口増加率の高い都道府県は東京都（3.9%）
- ◆ 最も人口減少率の高い都道府県は秋田県（6.2%）

※ 市区町村別人口増減率は59ページの人口地図をご覧ください。

Q8 5年前と比べて、人口が減少している市町村の割合はどれくらい？

人口増減率階級別市町村数の割合の推移（2005年～2020年）



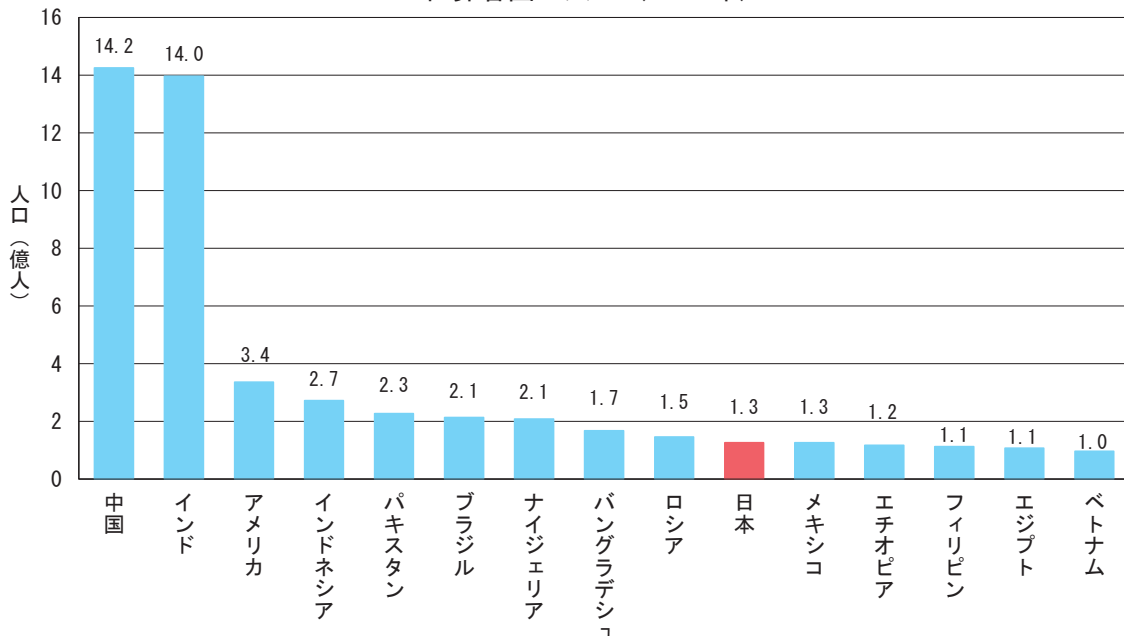
A 2020年は、82.5%(1,419市町村)で人口が減少

◆ 2020年は、5%以上人口が減少した市町村は半数を超えた

注意点③ P. 39

Q9 日本の人口は世界で何番目に多い？

世界各国の人口（2020年）



資料：United Nations, "World Population Prospects, The 2022 Revision"による年央推計値。
ただし、日本は国勢調査の結果

A 日本は1.3億人で10番目、世界人口の1.6%を占める

◆ 1位 中国（14.2億人） 2位 インド（14.0億人）

※ 順位は小数第二位以下の数値によります。